



DiNQLシステムを 大幅リニューアルします！

第3回・最終回

事業参加のしやすさの推進

これまで2回にわたり「データ利活用の促進」と「入力負担の軽減」を目指した具体的なシステム改修について紹介しました。今回は「事業参加のしやすさ」につながるリニューアルのポイントと「データの利活用の促進」につながるデータの第三者提供についてご紹介します。

トライアル機能の導入

これまでも毎年、DiNQL 事業への参加を希望する病院向けに説明会を開催し、DiNQL の仕組みや、看護の質改善のための DiNQL の活用法などを紹介してきました。しかし、これまでは DiNQL の IT システムを直接触って体験できる環境がなく「どのような入力画面なのか」「入力してみたい」「ベンチマーク評価を試してみたい」など、DiNQL への参加を検討するにあたり知りたい情報を十分に提供できていませんでした。

今回のリニューアルでは、トライアル機能を導入し、DiNQL IT システムへのデータ入力などの画面動作や表示されるベンチマーク結果（比較用に Dummy データを準備します）を体験できるようになります。

トライアル機能は2023年7月の開始を予定しており、DiNQL に参加したことがない病院、過去に DiNQL に参加したが現在は参加していない病院の方も、ぜひトライアル機能を通して最新の DiNQL IT システムに触れていただき、DiNQL 事業への参加をご検討いただければと思います。

全ての病院が参加できる仕組みに

DiNQL 事業では、2015 年度の本格実施時より、参加病院が「看護の質改善を図るために、DiNQL システムを利用する」という考え方の下、病床数に応じた参加費をいただけてきました。より多くのデータに基づく信頼性の高いエビデンスを構築し、看護政策の提言、そして看護政策の実現

を目指すためには、多くの病院が DiNQL 事業に参加する必要があります。看護政策の実現によって看護職の看護実践や労働環境の改善がもたらされ、それらは全て患者へ提供する看護の質の向上へとつながります。また、多くの病院が参加することでベンチマークの比較対象病院が増え、ベンチマーク評価がより有用になります。DiNQL 事業の見直しは、看護の大規模データベース構築に向けた第一段階です。そのため、全ての病院の参加に向け、参加費を無料化します。

データの第三者提供の開始

看護の質改善活動は、研究者などの第三者の支援を受けることで、データの読み解きや利活用が促進され、充実することが期待されます。そこで、DiNQL データの利活用の推進を目指し、参加病院が自身の判断で自病院のデータを第三者に提供できるようにいたします。また、都道府県看護協会・行政が政策提言や事業企画の立案に活用できるよう、日本看護協会から都道府県看護協会と行政に対して、集計値の提供を開始します。

DiNQL 事業のさらなる発展へ向けて

2023 年度からの DiNQL 事業の目的は、下記の通りです。

看護職が健康で安心して働き続けられる環境整備と看護の質向上のために、

- ①収集したデータを政策提言のためのエビデンス構築に活用し、看護政策の実現を目指す
- ②看護実践を可視化し、データに基づく改善活動の強化を図る

多くの病院が DiNQL 事業に参加することにより、DiNQL は看護の大規模データベースとして発展していくことができます。

現在、DiNQL 事業に参加中の病院の皆さまはもちろんのこと、参加したことがない病院の方々や、過去に参加していたが現在は参加中止している病院の方々も、ぜひ 2023 年度から大幅にリニューアルされる DiNQL 事業にご参加ください。よろしく申し上げます。